

大歳じんけんだより



発行 大歳地区人権学習推進協議会
(大歳地域交流センター内)
TEL 922-4035 FAX 922-4036

皆様には、平素より、人権学習の推進に深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。一人ひとりの人権が尊重され、自分らしく安心して暮らせる地域社会の実現を目指すため、皆様方のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様にとって今年一年が健康で明るく実り多き幸せな年でありますよう、心よりお祈り申し上げます。

大歳地区人権学習推進協議会

大歳小学校で人権学習講演会を実施しました！

去る10月22日(木)、大歳小学校にて「五感で感じる共有体験～私は大切な存在～」という演題で近藤卓先生に講演して頂きました。講演会に参加した5・6年生の児童の感想と講師の近藤先生が書かれた記事をご紹介します。

児童の感想

- ・ 普段の生活に家族からの愛があると知りました。
- ・ 帰ってさっそくお母さんに共有体験のことを話して、一緒にご飯を作りました。
- ・ お母さん、お父さんからは、大切にしてもらっているということを改めて思いました。
- ・ 人間はとてすばらしい生き物だと思いました。
- ・ 歌の歌詞を聴いて、人は誰でも愛されて生まれてきたんだなあと改めて知りました。



近藤先生の記事

◆基本的自尊感情があれば大丈夫

「自分は生きていい」「みんなから大切にされている」と感じている子どもは、自分を大切に思う気持ち(基本的自尊感情)に確信があり、自然と他者のいのちも大切だと思えます。

一方、「いのちの大切さ」がわからない子どもは、他人と比べた結果を評価されることが多いようです。

このように、自分が努力した過程を認めてもらえない子どもは、基本的自尊感情が低いまま育つ傾向があります。たとえ成績がよいといった社会的自尊感情が高くても、基本的自尊感情が低いと自分に自信が持てず、他者を思いやる余裕も持ちづらくなります。

このように、自尊感情には「基本的」と「社会的」の二つがあり、「自分や他者のいのちを大切に思う気持ち」を育むことができるのは、基本的自尊感情のほうです。

以下、具体的にどのようなことをすれば、基本的自尊感情を高め「いのちの大切さ」がわかる子どもへとつながるのかのヒントを紹介します。

◆ダメなものはダメ！でいい

ときに子どもは、「どうして人を殺してはいけないの?」「死ねばいいのに」といったきつい言葉を発することがあります。こんなとき保護者は、「理屈じゃない、ダメなものはダメ!」「死ぬという言葉は大嫌い!」と、自分の気持ちをはっきり伝えましょう。感情をまじえても構いません。ふざけて言ったとしても、こういうことは許されないという保護者のスタンスをはっきりさせるべきです。(裏面へ続く)

◆「向き合う」だけでなく「並ぶ」ことも大切に

読み聞かせする本をたまには「いのち」を考えさせるものにする、一日一回は家族全員で食事をしてみんなで会話をするなど、家族一緒の「ふだん」の時間を積み重ねることは、大切にされた体験として子どもの記憶に残り、基本的自尊感情を育むことにつながります。これは「いのちの大切さ」を育む、基本中の基本です。ところで、親子の関係は、とにかく一対一で「向き合い」がちです。しかし、「悲しいのは自分だけではない」といった気持ちを子どもと共有するには、同じ方向を親子で見る「並ぶ」関係がポイントとなるので、ぜひ覚えておきましょう。一緒にテレビや映画を見たり、一緒に同じ景色を見たりと、ほかのモノゴトを共有する「並ぶ」関係が築けるのはヒトのみで、親戚筋の類人猿でもできないそうです。この「並ぶ」関係を、いのちの教育に活かしてほしいと思います。

日常のさまざまな場面で親子「並んで」経験しましょう。いのちの大切さを育むきっかけが、そこにあるはずですよ。

鴻南中学校で人権学習講演会を実施しました！

去る11月7日（土）、保護者や地域の方々と交え、人権にかかわる授業と講演会を行いました。今年度は、「人権感覚をみがき、人権を互いに尊重し合う」をテーマに学習を展開しました。内容は次のとおりです。

1 各学年の公開授業

- (1) 1年生道徳：いじめにおける実体験を綴った中学生の作文を通して、いじめの不合理性についての理解をいっそう深め、いじめを断固許さない心情や道徳的態度を再確認し、他人の痛みを理解することの大切さを学びました。
- (2) 2年生道徳：中学生が書いた、いじめについての意見文を読んで、いじめについて考えました。日常のささいな言動が人の心を傷つけることにつながり、いじめは身近なところで起こりうることに気づき、相手の気持ちを考える思いやりのある行動の大切さを学びました。
- (3) 3年生道徳：老いていく祖母との軋轢の中、自分に対する祖母の深い愛情に気づく姿を通して、家族の大切さを知り、敬愛の念を深め、家族として支え合っていこうとする心情を育みました。人権課題の一つ、高齢者問題について考えました。
- (4) 特別支援A・B組学活：「日頃の自分を振り返る」「自分や友達のよいところを理解する」「友達から認めてもらう」などの活動を通して、人と接するとき気をつけることや、相手を思いやった行動について考えました。

2 教育講演会

有志合唱団による合唱、人権作文発表、人権標語表彰の後、歌手・作曲家のちひろさんによる歌と講演を聞きました。演題は「明るいほうへ～金子みすゞの心とともに～」で、金子みすゞさんの詩に込められたメッセージをわかりやすくお話いただき、改めて詩の意味を考える貴重な時間となりました。美しい歌声と心地よいメロディーは生徒たちの心に印象深く残りました。講演をきっかけに、自分の生き方を見つめ、人とかかわりの中で何ができるのか考えることができたように思います。



【講演後の生徒の感想】

ちひろさんの優しい歌声とともに、人権の大切さについて学びました。金子みすゞさんの「私と小鳥と鈴と」の終わりの二行。「鈴と、小鳥とそれから私、みんなちがってみんないい。」それはどんなに人とちがっても、一人ひとりちがうところがあって、誰一人同じ人間はいないのだから、人とちがってもいいんだよということだと思います。人には長所も短所も両方あります。その両方を認め合い、理解し合うことが大切なのではないかと思います。ちひろさんは優しい言葉と歌声でその大切なことを教えてくださいました。みんなが認め合い、理解し合うことのできる、そんな素晴らしい世界になればいいなと思います。